

学力向上推進事業

## 学 力 向 上 推 進 協 議 会 報 告 書

～ 未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育の実現に向けて ～

静岡県学力向上推進協議会

令和8年3月

## 巻 頭 言

令和7年3月に策定された静岡県教育大綱のもと、静岡県では、これからの社会を主体的に生き抜き、未来を切り拓いていく人材の育成を目指した教育の充実が進められています。急速に変化し、将来の予測が困難な時代においては、確かな学力の定着に加え、多様な他者と協働しながら課題を発見し、解決に向けて粘り強く取り組む力や、自ら学び続けようとする態度の育成が、これまで以上に重要となっています。

このような人材育成の方向性は、国が示す教育の在り方とも軌を一にするものであり、現行の学習指導要領においては、「社会に開かれた教育課程」を理念に掲げ、「何を学ぶか」「何ができるようになるか」を明確にするとともに、「どのように学ぶか」を重視し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。各学校においては、一人一台端末を学習ツールとして日常的に活用しながら、子供一人一人の特性や学習状況に応じた指導の工夫を重ね、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る取組が着実に進められてきました。

また、全国学力・学習状況調査の結果や分析からは、情報を相互に関連付けて考えをまとめる力や、日常生活や社会の場面に照らして妥当性を判断する力、さらには学ぶ意義を見だし主体的に学習に向かう態度の重要性が一貫して示されています。これらは、「知識及び技能」の習得を踏まえつつ、「思考力、判断力、表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」を総合的に育成する授業づくりの必要性を改めて示すものです。

こうした流れを受け、静岡県教育委員会では、令和7・8年度の2年間、「未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育の実現に向けた授業づくり、学級づくり調査研究事業」を実施することとしました。本年度は、その1年目として、これまで積み重ねてきた「誰一人取り残さない教育」の理念と実践を基盤に、子供一人一人の可能性をさらに伸ばす教育の在り方について検証を進めていきます。

本事業の推進に当たり、学校現場においては、子供一人一人を尊重し、多様な考えや価値観を認め合う肯定的な子供観に立った学級づくりや、対話を通して学びを深める授業づくりが重要となります。本報告書には、調査研究指定校における1年目の取組や実践の過程がまとめられています。記載された内容を参考にしながら、各学校における授業改善や学級経営の一層の充実につなげていただければ幸いです。

本調査研究事業を通して、子供たちが変化の激しい社会の中でも自ら考え、判断し、行動し続ける力を身に付け、未来に向かって力強く歩んでいくことができるよう、引き続き教育の質の向上に取り組んでまいります。

静岡県学力向上推進協議会  
会長 塩田 真吾

# 学力向上推進協議会報告書について

## 1 本報告書発行の意義

本報告書は、静岡県の学力向上推進事業について、主に以下の3点を報告するとともに、静岡県内の学力向上に係る取組を広く周知することで、各学校において学校改善・授業改善を促すことを目途にしている。

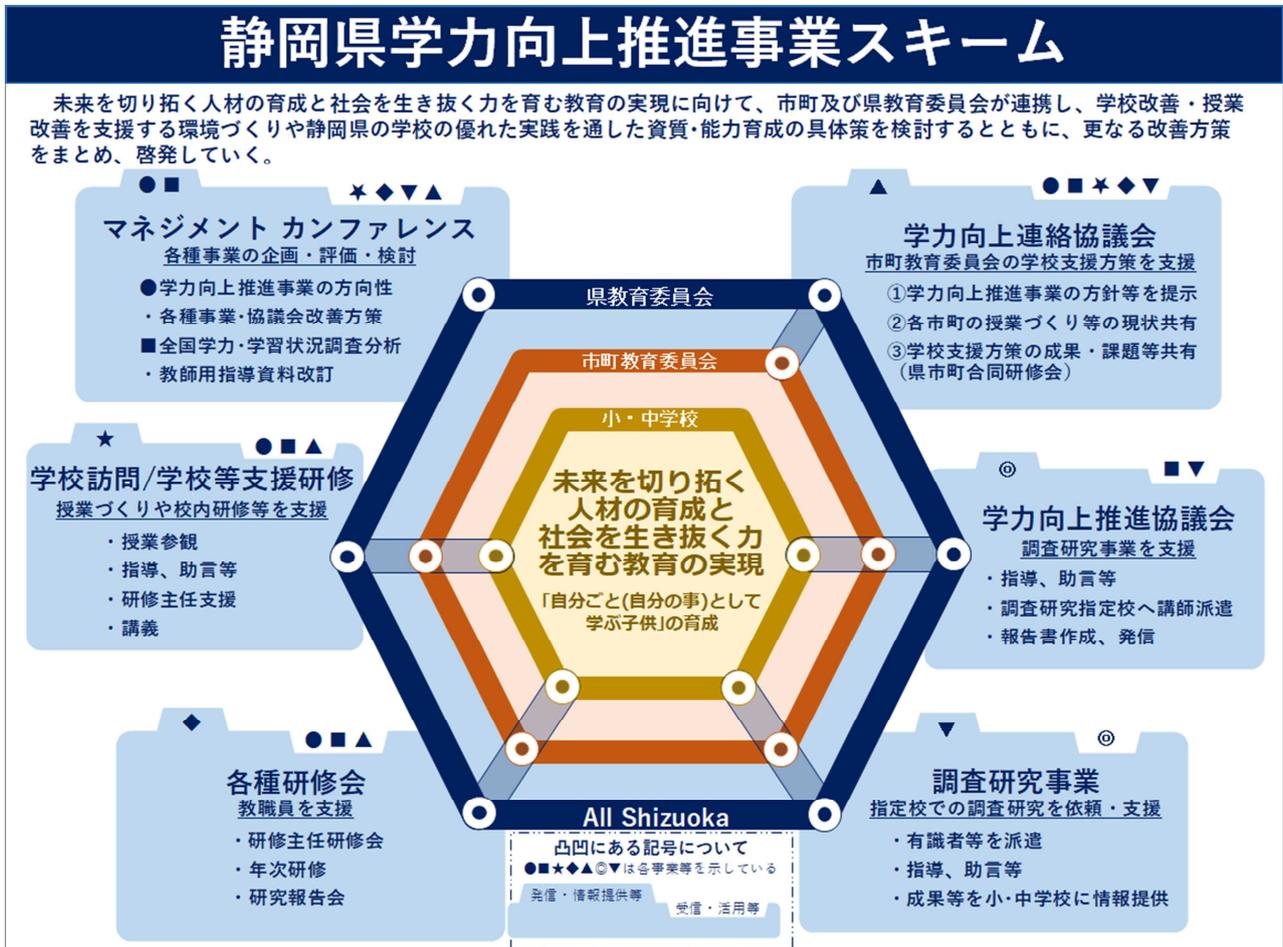
- ・令和7年度全国学力・学習状況調査の概要
- ・令和7年度全国学力・学習状況調査の各教科調査、児童生徒質問調査及び学校質問調査の分析と授業改善案
- ・調査研究事業における調査研究指定校及び調査研究推進地区教育委員会の取組

## 2 学力向上推進事業における取組の検証について

学力向上推進事業における取組（全国学力・学習状況調査分析会、調査研究事業等）を学力向上推進協議会で協議し、検証を行った。

本報告書の中には、全国学力・学習状況調査の分析と授業改善案、調査研究指定校及び調査研究推進地区教育委員会の取組が報告されており、いずれも学力向上推進協議会で協議・検証された内容となっている。

### 令和7年度学力向上推進事業スキーム（全体構想図）



# ◇ ◇ 目次 ◇ ◇

- ・巻頭言 学力向上推進協議会会長 塩田 真吾 氏
- ・学力向上推進協議会報告書について

## 1 令和7年度全国学力・学習状況調査について・・・・・・・・・・ 1

- (1) 調査の目的
- (2) 調査実施日・実施学校数・実施人数（政令市、特別支援学校を含む）
- (3) 調査内容
- (4) 調査結果の概要

## 2 調査問題及び結果の分析・・・・・・・・・・ 4

- (1) 各教科調査の観点別平均正答率等
- (2) 教科調査問題の概要及び結果の状況と授業改善に向けて  
小学校国語、中学校国語、小学校算数、中学校数学、小学校理科、中学校理科
- (3) 質問調査の結果分析  
主に学習に対する興味・関心等に関すること、主に授業に関すること

## 3 調査研究事業における取組・・・・・・・・・・ 20

- (1) 実施要領
- (2) 指定校、推進地区教育委員会の取組(中間報告書)
  - ア 富士市
    - (ア) 富士市立青葉台小学校
    - (イ) 富士市教育委員会
  - イ 沼津市
    - (ア) 沼津市立第三中学校
    - (イ) 沼津市教育委員会
  - ウ 磐田市
    - (ア) 磐田市立豊田南小学校、磐田市立青城小学校、磐田市立豊田南中学校
    - (イ) 磐田市教育委員会

磐田市立豊田南小、青城小、豊田南中学校は、  
「井通・青城学府」として、中学校区を指定

# 1 令和7年度全国学力・学習状況調査について

## (1) 調査の目的

文部科学省では、平成19年度から開始した全国学力・学習状況調査（以下、本調査）の目的を、次のように掲げている。

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

本調査は、実施要領に示されているとおり、「測定できるのは学力の特定の一部分ではある」が、児童生徒の学力の3要素が確かに身に付いているかを把握するために客観性の高い重要な調査と言える。

## (2) 調査実施日・実施学校数・実施人数（政令市、特別支援学校を含む）

実施日：令和7年4月17日（木）

実施学校数：小学校477校、中学校259校

## (3) 調査内容

ア 教科に関する調査

小学校：国語、算数、理科 中学校：国語、数学、理科

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(ア) 児童生徒に対する調査 … 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等

(イ) 学校に対する調査 … 指導方法、人的・物的な教育条件の整備の状況等

## (4) 調査結果の概要

ア 学力に関する調査（教科ごとの平均正答率）単位は%、中学校理科のみIRTスコア

小学校			中学校		
区分	静岡県	全国	区分	静岡県	全国
国語	66.0	66.8	国語	56.3	54.3
算数	57.1	58.0	数学	50.9	48.3
理科	55.3	57.1	理科	52.7	50.3

イ 学習状況に関する調査

(7) 児童生徒質問調査の主な結果

※質問項目の[ ]内は、中学校の質問 (肯定的な回答の割合 単位は%)

調査項目	質問項目	小学6年生			中学校3年生		
		静岡県	前回比	全国比	静岡県	前回比	全国比
自己有用感	5 自分には、よいところがあると思いますか	87.9	3.0	1.0	87.2	2.6	1.0
	6 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	93.1	2.6	1.1	93.5	2.2	1.3
学習習慣	17 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)【1時間以上】	55.9	-0.8	1.9	63.1	-4.3	1.5
	19 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか【1時間以上】	44.7	-0.6	-2.4	59.8	-5.1	1.9
ICTを活用した学習状況	28 5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか[週3回以上]	78.4	12.9	6.7	85.3	13.3	8.8
	29						
	(3) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか	70.0	新規	0.7	65.4	新規	2.1
(4) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思いますか	79.6	新規	2.9	82.1	新規	5.5	
主体的・対話的で深い学び	31 5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	61.9	0.8	-6.7	55.4	-1.0	-7.6
	32 5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	78.7	-3.2	1.0	80.2	-1.0	-0.1
	36 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	80.3	-1.7	-0.5	72.5	-4.0	-0.9
教科	53 算数[数学]の勉強は好きですか	59.5	-3.3	1.6	56.8	-1.5	-3.0
	55 算数[数学]の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.5	-3.2	-0.1	76.1	-2.0	-0.9
	算1 今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	72.1	-5.2	-2.4			
	数1 今回の数学の問題では、解答や言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか				55.6	3.6	0.7

## (イ) 学校質問調査の主な結果

※質問項目の[ ]内は、中学校の質問 (肯定的な回答の割合 単位は%)

調査項目	質問項目	小学校			中学校		
		静岡県	前回比	全国比	静岡県	前回比	全国比
学校運営	15 児童[生徒]の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	98.9	±0.0	1.8	98.8	-0.5	2.8
	16 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	97.7	-0.4	0.2	94.9	0.9	2.8
	72 前年度までに、近隣等の中学校[小学校]と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	71.7	-1.8	6.4	75.9	-0.2	4.2
	77 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか	96.4	3.1	3.1	94.5	5.3	6.3
主体的・対話的で深い学び	25 調査対象学年の児童[生徒]は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	89.1	2.0	-0.2	89.5	5.1	1.3
	26 調査対象学年の児童[生徒]は、授業において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	78.2	-0.5	-2.2	84.1	-4.4	1.3
	28 調査対象学年の児童[生徒]は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか	95.4	0.2	1.2	96.8	0.5	2.2
	29 調査対象学年の児童[生徒]は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか	68.1	8.8	4.0	54.4	0.2	-2.2
	31 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、学習指導において、児童[生徒]が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	95.4	-0.9	1.2	94.9	-2.3	-0.1
I C T	60 調査対象学年の児童[生徒]が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童[生徒]一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか [週3回以上]	55.4	-1.9	3.2	60.0	0.7	7.7
家庭学習	80 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに家庭学習の取組として、学校では、児童[生徒]に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	96.7	-1.5	0.1	92.2	-3.1	-0.6
	81 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、家庭学習について、児童[生徒]が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	91.0	-2.2	0.4	84.4	2.3	-1.5

## 2 調査問題及び結果の分析

### (1) 各教科調査の観点別平均正答率等

## 小学校

	R7平均正答率(%)		
	静岡県	全国	差
国語	66.0	66.8	-0.8
算数	57.1	58.0	-0.9
理科	55.3	57.1	-1.8

#### 【国語】

分類	区分	対象 問題数	R7平均正答率(%)			
			静岡県	全国	差	
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	74.1	76.9	-2.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	63.3	63.1	0.2
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	81.1	81.2	-0.1
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	66.4	66.3	0.1
		B 書くこと	3	69.2	69.5	-0.3
C 読むこと		4	56.3	57.5	-1.2	
評価の観点	知識・技能	4	73.1	74.5	-1.4	
	思考・判断・表現	10	63.2	63.8	-0.6	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	64.5	64.7	-0.2	
	短答式	3	76.1	78.5	-2.4	
	記述式	2	57.8	58.8	-1.0	

#### 【算数】

分類	区分	対象 問題数	R7平均正答率(%)		
			静岡県	全国	差
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	60.3	62.3	-2.0
	B 図形	4	57.7	56.2	1.5
	C 測定	2	53.9	54.8	-0.9
	C 変化と関係	3	56.1	57.5	-1.4
	D データの活用	5	60.8	62.6	-1.8
評価の観点	知識・技能	9	65.2	65.5	-0.3
	思考・判断・表現	7	46.7	48.3	-1.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	66.7	67.2	-0.5
	短答式	6	63.5	64.0	-0.5
	記述式	4	33.2	34.9	-1.7

#### 【理科】

分類	区分	対象 問題数	R7平均正答率(%)			
			静岡県	全国	差	
学習指導 要領の区 分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	45.7	46.7	-1.0
		「粒子」を柱とする領域	6	49.8	51.4	-1.6
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	48.1	52.0	-3.9
		「地球」を柱とする領域	6	65.5	66.7	-1.2
評価の観点	知識・技能	8	53.2	55.3	-2.1	
	思考・判断・表現	9	57.2	58.7	-1.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	11	53.8	54.7	-0.9	
	短答式	4	66.4	69.7	-3.3	
	記述式	2	41.7	45.2	-3.5	

# 中学校

	R 7 平均正答率(%)		
	静岡県	全国	差
国語	56.3	54.3	2.0
数学	51.0	48.3	2.7
理科	527	503	24

※理科は I R T スコア

## 【国語】

分類	区分	対象 問題数	R 7 平均正答率(%)			
			静岡県	全国	差	
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	48.3	48.1	0.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	55.2	53.2	2.0
		B 書くこと	5	56.0	52.8	3.2
		C 読むこと	3	63.5	62.3	1.2
評価の観点	知識・技能	2	48.3	48.1	0.2	
	思考・判断・表現	12	57.6	55.3	2.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	8	65.0	63.9	1.1	
	短答式	2	76.4	73.6	2.8	
	記述式	4	28.8	25.3	3.5	

## 【数学】

分類	区分	対象 問題数	R 7 平均正答率(%)		
			静岡県	全国	差
学習指導要領の領域	A 数と式	5	45.9	43.5	2.4
	B 図形	4	49.1	46.5	2.6
	C 関数	3	48.3	48.2	0.1
	D データの活用	3	64.4	58.6	5.8
評価の観点	知識・技能	9	56.8	54.4	2.4
	思考・判断・表現	6	42.2	39.1	3.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	3	56.8	54.0	2.8
	短答式	7	54.4	52.0	2.4
	記述式	5	42.6	39.6	3.0

【理科】 公開問題のみの結果について、平均正答率で表している。

分類	区分	対象 問題数	R 7 平均正答率(%)			
			静岡県	全国	差	
学習指導 要領の区 分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	5	56.9	54.6	2.3
		「粒子」を柱とする領域	8	62.7	59.1	3.6
	B区分	「生命」を柱とする領域	5	41.6	39.2	2.4
		「地球」を柱とする領域	5	39.5	36.7	2.8
評価の観点	知識・技能	10	57.3	55.1	2.2	
	思考・判断・表現	12	49.0	45.3	3.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	15	52.7	50.2	2.5	
	短答式	1	47.2	44.9	2.3	
	記述式	6	55.6	51.1	4.5	

## (2) 教科調査問題の概要及び結果の状況と授業改善に向けて

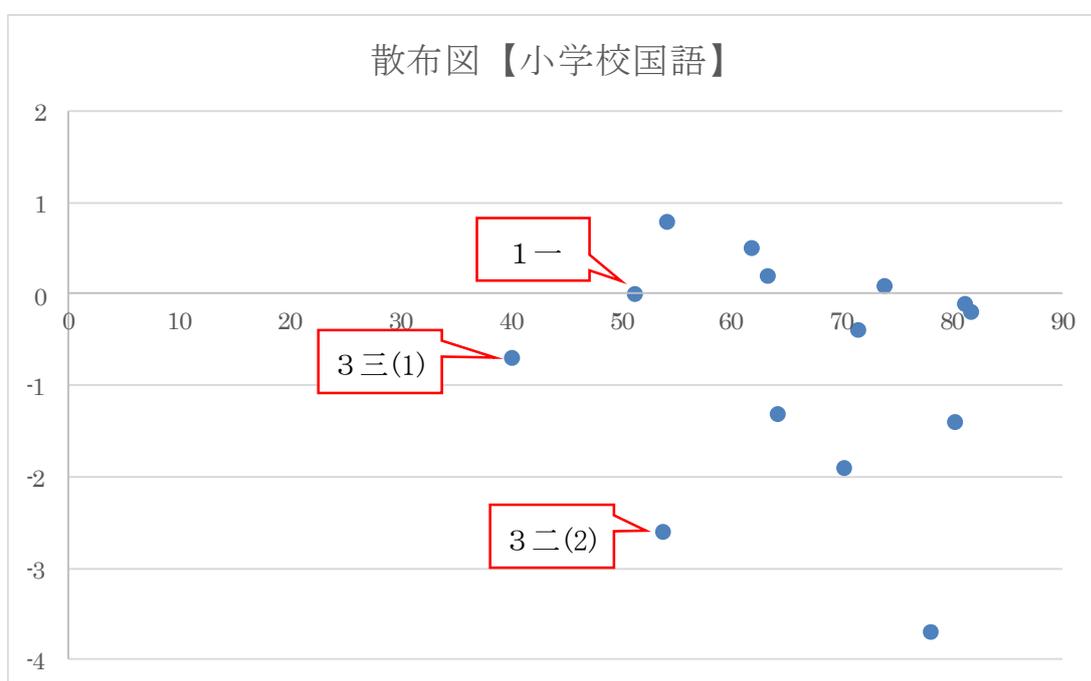
### 【小学校国語】

#### 1 調査問題の概要及び結果の状況

小学校国語は、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」から2問、「情報の扱い方に関する事項」から1問、我が国の言語文化に関する事項から1問、「思考力、判断力、表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」から3問、「B 書くこと」から3問、「C 読むこと」から4問、計14問が出題された。また、出題形式は選択式が9問、短答式が3問、記述式が2問であった。

結果は、全国の平均正答率をやや下回った。学習指導要領の内容（指導事項や領域）で見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「C 読むこと」に係る一部の問題に、課題が見られた。

#### 2 設問別正答率の状況



縦軸 静岡県の平均正答率から全国の平均正答率を引いた値

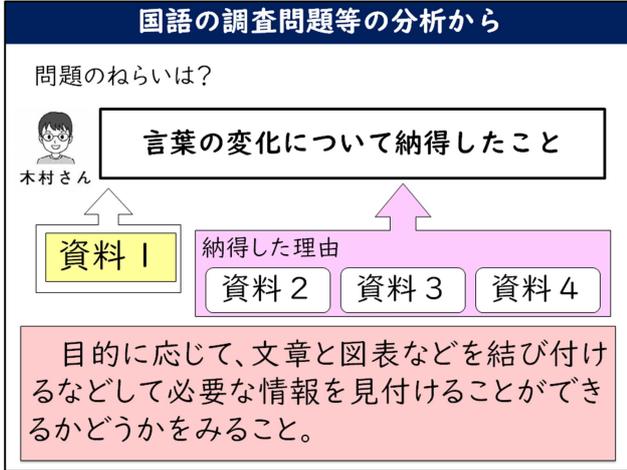
横軸 静岡県の平均正答率

#### 3 課題の見られた問題

問題番号 [領域等]	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	静岡県	全国		
1一 [A]選択式	54.1	53.3	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものと適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる
3二(2) [C]選択式	51.3	51.3	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる
3三(1) [C]選択式	40.1	40.8	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる

#### 4 授業改善に向けて

本年度の調査結果から、目的に応じて文章や図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付ける点に注目した。これは、国語科において育成すべき資質・能力のうち「読むこと」の「精査・解釈」の指導事項に当たる。説明的な文章おける精査・解釈では、「文章の内容や形式に着目して読み、目的に応じて必要な情報を見付けること」が求められている。



**国語科において育成すべき資質・能力**

「読むこと」の指導事項  
 内容の(1)は、学習過程に沿って、次のように構成している。  
 ○構造と内容の把握  
 ○**精査・解釈** 令和5年度に出題。課題が見られた。  
 ○考えの形成  
 ○共有

○**精査・解釈**  
 文章の内容や形式に着目して読み、**目的に応じて必要な情報を見付けること**や、書かれていること、あるいは書かれていないことについて、具体的に想像することなどである。

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（36-37頁）

必要な情報を見付けるためには、文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、情報の関係を明らかにしながら、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要である。また、必要な情報は目的に応じて変わるため、文章の中から必要な情報を見付けるために、読む目的を明確にすることが大切である。

授業では、目的を明確にした上で複数の資料を結び付けて読む学習活動を設定し、図表やグラフなどを含むそれぞれの資料のどの部分がどの文章と関係するのかなどを考えながら読むことが重要である。複数の資料を読む際には、互いの内容を補い合っていたり、解説になっていたりするなどの関係を捉えるために、言葉や図表などを線で結ぶ、囲むといったように、視覚的に理解できるようにすると効果的である。

言語活動の場面では、子供たちが見通しをもって取り組めるような問いかけをすること、言葉の言い換えや具体的な説明を促しながら、子供が自分なりに必要な情報かを確かめられるようにすることが大切である。また、物事を多面的に捉えることができるよう、子供が根拠を基に判断したり、判断した理由を交流したりする機会を設けることを意識する。

さらに、授業者は、育成すべき資質・能力を把握して、子供の様子を見取り、的確に価値づける場面をつくるのが大切である。

**国語の授業改善に向けて**

授業場面では

言葉が変化してきたことを、他にもいろいろな資料を使って調べてみたいな。

複数の資料 ICT環境の活用

資料をどのように使うといいかな。

対話

言葉の変化をキーワードにして、複数の資料を比べながら読むと違いなどが分かるかも。

言葉がどのように変化したのか、具体的な例を挙げているところを見付けるといいね。

物事を多面的に捉える、対話を通して考える機会を設ける。

**国語の授業改善に向けて**

授業場面では

みんなで読んだ【資料】には、「コミュニケーションの食い違いを放置して置くわけにもいきません。」と書いてあったけど、これってどういうことかな。

「雨模様」の意味のとらえ方

年齢	16-19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
雨が降りそうな様子	50.4	43.5	53.7	53.0	61.2	52.5	46.2
小雨が降ったりやんだりしている様子	31.8	42.9	28.1	33.4	33.1	39.8	39.8

【資料】の文章と、私が見付けたこのグラフ資料を結びつけて読むと、文章の内容が理解できるんじゃないかな。

文章と結び付くところを線で囲むのは、いいですね。

必要な情報を見付けるために、言葉と図表などを結び付けるなど、視覚的に理解できるようにすると効果的。

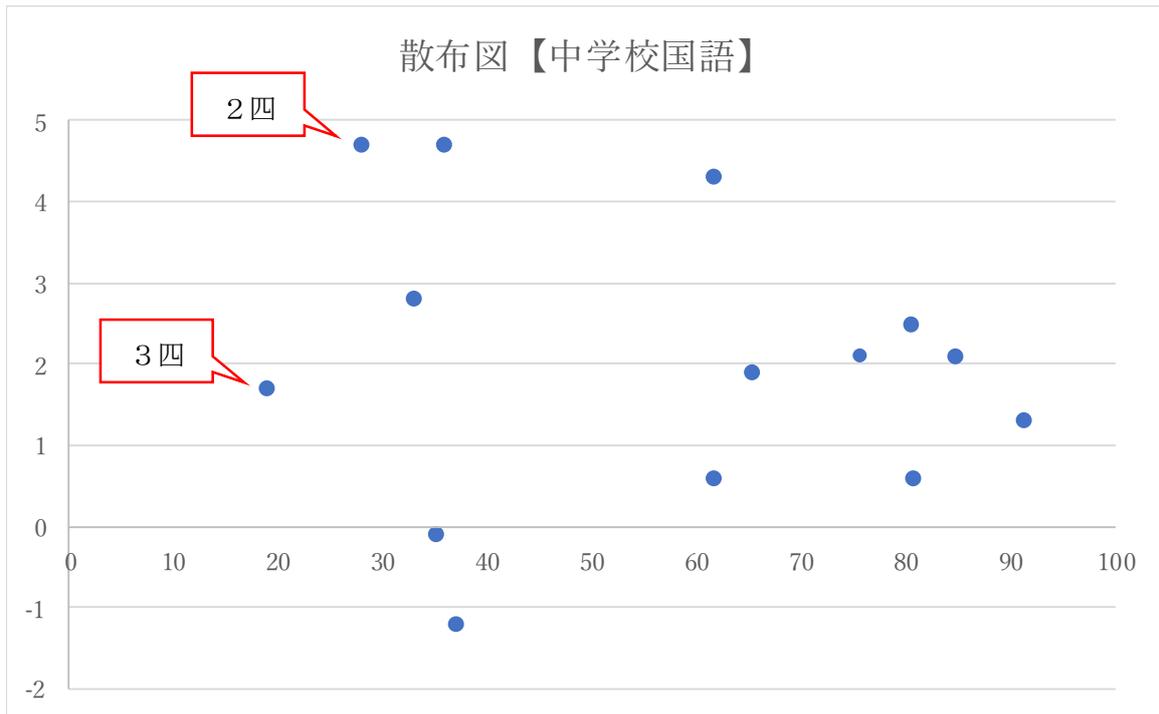
## 【中学校国語】

### 1 調査問題の概要及び結果の状況

中学校国語は、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」から2問、「思考力、判断力、表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」から4問、「B 書くこと」から5問、「C 読むこと」から3問が出題された。また、出題形式は選択式が8問、短答式が2問、記述式が4問の計14問であった。

結果は、全国の平均正答率を上回った。しかし、学習指導要領の内容（指導事項や領域）で見ると、「A 話すこと・聞くこと」、「C 読むこと」に課題が見られた。

### 2 設問別正答率の状況



縦軸 静岡県の平均正答率から全国平均正答率を引いた値

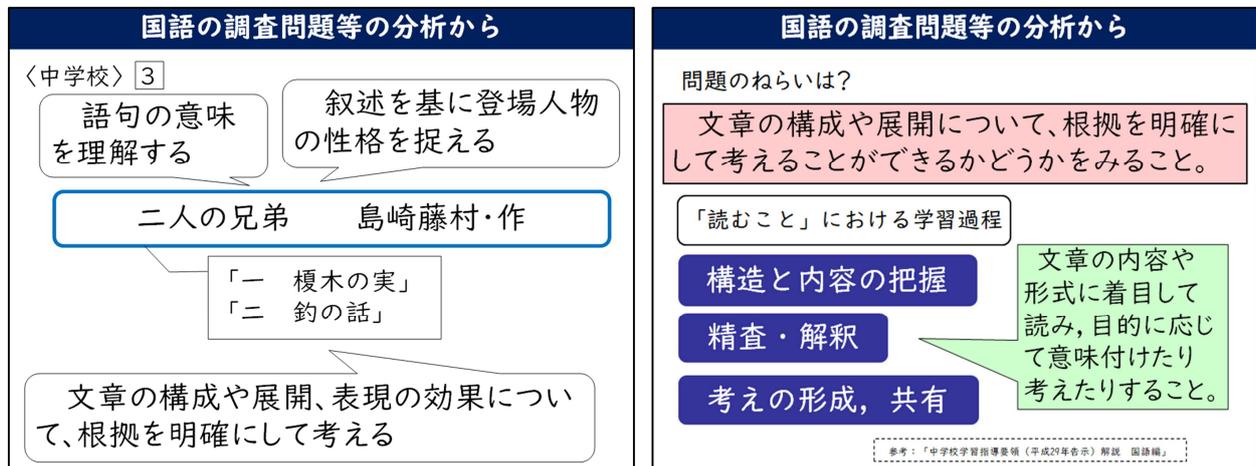
横軸 静岡県の平均正答率

### 3 課題の見られた問題

問題番号 [領域等]	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	静岡県	全国		
2四 [A]記述式	27.9	23.2	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる
3四 [C]記述式	18.8	17.1	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる

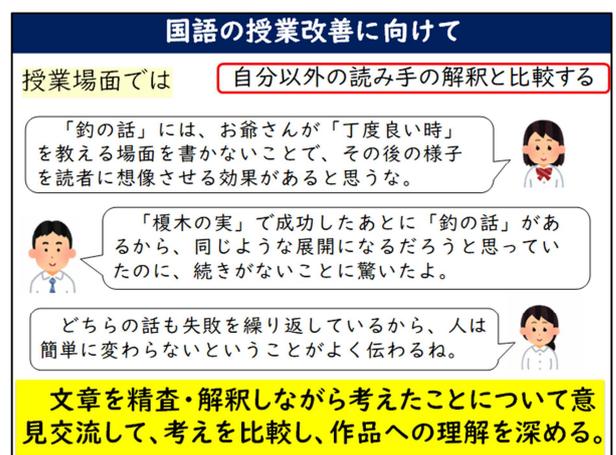
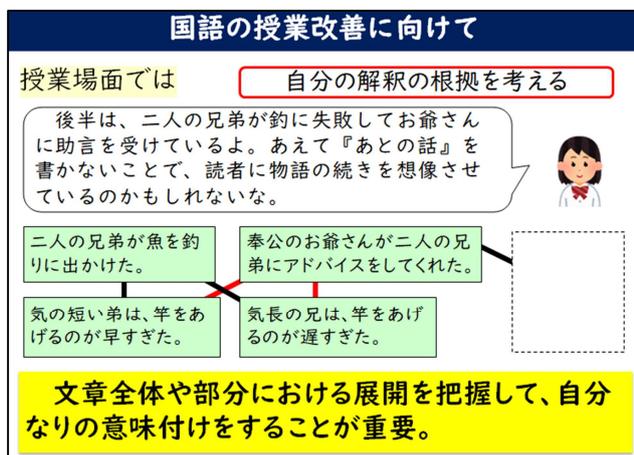
#### 4 授業改善に向けて

本年度の調査結果から、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える点に注目した。国語科において育成すべき資質・能力では、「読むこと」の「精査・解釈」の指導事項に当たるが、「読むこと」の学習においては、構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有に関する各指導事項を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。



文学的文章において、文章の構成や展開について考えるためには、構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、展開を把握することが求められる。また、構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなど、自分なりの意味付けをすることが重要である。

授業においては、単元を構想する段階で、言語活動を通して、構成や展開に着目し、効果について考えるような授業展開を意識することが大切である。物語の展開などについて、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりして解釈し、それぞれの考えを伝え合う学習活動などが考えられる。また、意見交換を通じて、子供たちが互いの考えを共有し合い、理解を深めることができる機会を提供することも大切である。さらに、学びを生かすためにも、複数の文学作品を読んで、構成や展開について考える学習を行うことも考えられる。作品を読む視点を明確にし、具体的なまとめができるような支援を工夫することも大切である。



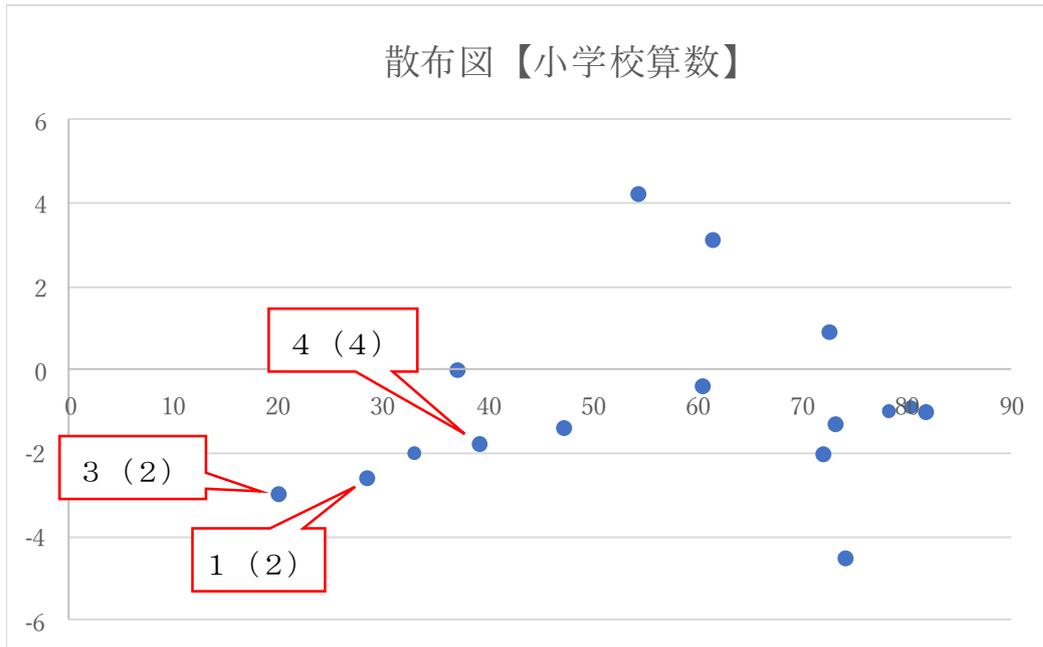
## 【小学校算数】

### 1 調査問題及び結果の状況

算数は、領域の「A 数と計算」から8問、「B 図形」から4問、「C 測定」から2問、「C 変化と関係」から3問、「D データの活用」から5問の、計16問（「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の領域に該当する場合があるため、各領域の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。）が出題された。また、出題形式は選択式が6問、短答式が6問、記述式が4問であった。

結果は、学習指導要領で示された「B 図形」の領域において全国の平均正答率を上回っているが、それ以外の領域において全国の平均正答率を下回った。特に「D データの活用」、評価の観点の「思考・判断・表現」に係る問題で課題が見られた。

### 2 設問別正答率の状況



縦軸 静岡県の平均正答率から全国平均正答率を引いた値  
横軸 静岡県の平均正答率

### 3 課題の見られた問題

問題番号 [領域等]	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	静岡県	全国		
1 (2) [D]記述式	28.4	31.0	都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる
3 (2) [A]記述式	20.0	23.0	$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる
4 (4) [B]選択式	39.1	40.9	10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる

#### 4 授業改善に向けて

「数と計算」領域における小数や分数の計算の仕方について考察する問題に注目した。分数の加法の計算の正答率に比べ、小数の加法を参考にして分数の加法の方法を説明する問題の正答率が低かった。これは、計算方法や概念についての意味理解に課題があることが考えられる。

学習指導要領解説では、基礎的・基本的な概念や性質を理解することが重要であり、その理解に裏付けられた確かな知識及び技能を日常生活や社会における問題解決に役立てられるようにすることが大切であると強調している。また、統合的・発展的に考察していくことで、物事を関係付けて考察したり、他でも適用したりしようとする態度を養うことも期待できる。

**算数の調査問題等の分析から**

この問題のねらいは？

0.4  
0.1が4個

0.3  
0.1が3個

0.4 + 0.3の計算は、0.1をもとにすると、4 + 3を使って考えることができます。

分数のたし算についても、**小数で考えたように**振り返っています。

分数の加法について、**共通する単位分数を見だし**、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つかを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

**算数科の目標**

○目標(一部抜粋)

(1)数量や図形などについての**基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに**、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付ける

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編」(24頁)

日常生活や社会における事象を数理的に捉え処理して問題を解決することに**役立てられるように**することが大切である。

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編」(24頁)

(略) **統合的・発展的に**考察していくことで、(中略)物事を**関係付けて**考察したり、**他でも適用**したりしようとする態度や、新しいものを発見し物事を多面的に捉えようとする態度を養うことも期待できる。

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編」(26頁)

授業改善に向けて、形式的な処理にとどまらず、その理由を問うことが重要である。子供は、これまでの学びを振り返りながら、図を使ったり、単位分数に着目したりして考えることが期待される。こうした活動は、分数の意味についての理解を深めたり、既習事項を振り返りながら統合的に考えたりするなど、概念についての理解を深めることにつながると考えられる。

実際の授業では、学年や単元のつながりを意識し、計算方法の共通点を見付ける活動を行うなど、統合的・発展的に考察する場を設定することも有効である。これにより、概念についての理解を深めるだけでなく、分数や小数のそれぞれの表現方法の有用さや有益さを実感することにつながることが期待される。また、数の意味や大きさの理解を深めたり、感覚を豊かにするために、数直線上に表す活動を行うことも大切である。

**算数の授業改善に向けて**

授業場面では

考え方を説明するように促す

答えが3/5になる理由を説明できるかな。

1/5 + 2/5 = 3/5です。

どうすれば説明することができるのかな。

図を使って考えてみたらどうかな。

小数の計算では、まともに着目して考えたね。

0.2は0.1の2つ分

図を用いて分数の意味について考えたり、既習事項を振り返って統合的に考えたりすることで理解を深める。

**算数の授業改善に向けて**

各単元や学年のつながりを意識して計算に共通することは何かな。

50+20    500+20     $\frac{1}{2} + \frac{1}{5}$     0.5+0.2

いろんな数があるけど、どれもまとも注目して計算しているね。

概念についての深い理解や小数や分数などの価値を実感することにつながる。

整数や小数、分数を同じ数直線上に表すことでいろいろな数を数直線に表してみよう

数の意味や大きさの理解を深めたり、数の大きさについての感覚を豊かにすることにつながる。

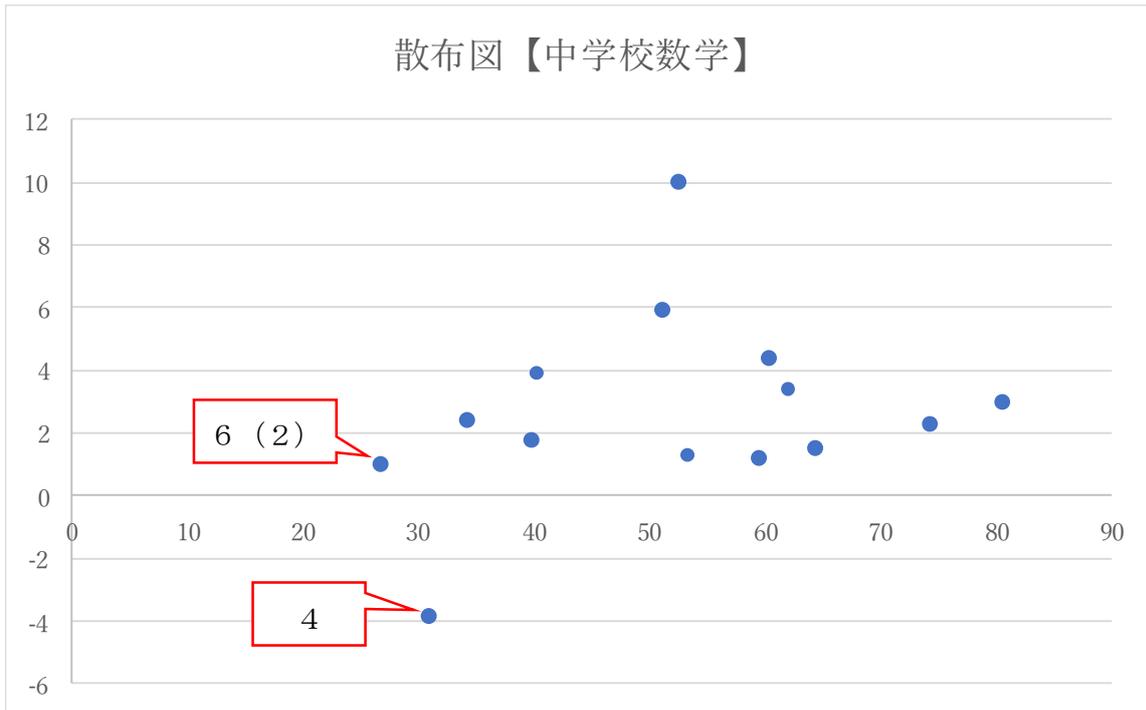
## 【中学校数学】

### 1 調査問題及び結果の状況

中学校数学は、領域の「A 数と式」から5問、「B 図形」から4問、「C 関数」から3問、「D データの活用」から3問の、計15問が出題された。また、出題形式は選択式が3問、短答式が7問、記述式が5問であった。

結果は、全領域等で全国の平均正答率を上回った。「A 数と計算」、「C 関数」領域の一部の問題においては、課題が見られた。

### 2 設問別正答率の状況



縦軸 静岡県の平均正答率から全国平均正答率を引いた値

横軸 静岡県の平均正答率

### 3 課題の見られた問題

問題番号 [領域等]	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	静岡県	全国		
4 [C]短答式	30.9	34.7	一次関数 $y = 6x + 5$ について、 $x$ の増加量が2のときの $y$ の増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 $x$ の増加量に対する $y$ の増加量を求めることができるかどうかをみる
6 (2) [A]記述式	26.7	25.7	$3n$ と $3n + 3$ の和を $2(3n + 1) + 1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる

#### 4 授業改善に向けて

「関数」領域における問題解決の方法を数学的に説明する問題に注目した。問題8(2)は、日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できるかどうかをみることをねらいとしている。解答類型の分析から、子供は表、式、グラフの特徴を捉え、場面に応じて適切に選択したり、表現したりすることに課題があることが分かった。学習指導要領解説では、数学を活用して事象を論理的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うことが大切であると述べている。また、日常の事象を理想化・単純化して関数とみなして捉えることや事象に即して判断し説明することが大切である。

**数学の調査問題等の分析から**

数学8(2)

A駅の近くに住んでいる歩夢さんは、C駅とD駅の間にあるスタジアムによく行きます。

調べた結果

	A駅	B駅	C駅	D駅	E駅
A駅からの走行距離(km)	0.0	11.4	27.7	81.9	104.6
A駅からの運賃(円)	0	210	510	1520	1930

(2) 歩夢さんがさらに調べると、新しい駅はA駅から60.0kmの地点につくられることがわかりました。そこで、A駅から新しい駅までの運賃がおよそ何円になるかを予測することにしました。

A駅から新しい駅までの運賃を予測するために、前ページのA駅からの走行距離と運賃のグラフにおいて、原点にある点Aから点Eまでの点が一直線上にあるとして考えることにしました。

このとき、A駅から新しい駅までの運賃はおよそ何円になるかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に運賃がおよそ何円になるかを求める必要はありません。

A駅からの走行距離と運賃のグラフ

**数学科の目標及び内容**

○目標

(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」(20頁)

事象を理想化したり単純化したりして、事象にある関係を関数とみなして捉えること、すなわち、事象の中にある数量の関係を既習の関数とみなして処理し、導かれた結果を事象に即して判断し説明することが重要になる。

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編」(51頁)

授業場面では、例えば、実験を通して3分をはかる砂時計を作るために必要な砂の重さを予想する場面を設定する。子供は実験を通じて関係を調べていく中で、さまざまな要素に着目し、その関係を捉えようとするのが考えられる。このように、与えられた値について考察するだけでなく、実験を行い、その結果を用いて考察する場面を設定することで、関数関係を見だし、考察する力を高めることが期待される。一方で、日常生活や社会の事象を取り上げ考察する場合、厳密には関数と言えない場合も多い。だからこそ、単にできあがった数学を学ぶだけではなく、およその値で考えたり、砂の粒の大きさや落ちる量は一定と考えたりするなど、理想化・単純化することで、事象にある関係を関数とみなして捉えられるということを理解することが重要である。複数の数学的な表現を用いて考察するためには、表だけでなく、グラフや式を使って調べるように促すことが有効である。そうすることで、表とグラフを相互に関連付けて考察したり、理科の授業で行った実験の場面を想起しながら教科等横断的に考察したりすることが期待される。また、さまざまな数学的な表現を使って説明したり振り返ったりする場を設けることで、数学的な表現のよさを実感するとともに、相互に関連付けて表現する力を育成することにつながる。

つまり、日常生活や社会の事象における問題を取り上げ、子供自身が事象を理想化したり単純化したりしながら数学の問題として捉え、数学を活用して解決する場面を設定することが重要である。そうすることで、数学的な活動の楽しさや数学のよさを実感し、主体的に学習に取り組むことが期待される。また、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現するを通して、それぞれが持つ特徴を捉え、適切に表現する力を育成することにつながると考える。

**数学の授業改善に向けて**

授業改善のポイント

- ・日常生活や社会の事象における問題を、理想化したり単純化したりして、数学の問題として捉え、数学を活用して解決する場面を設定する。(自分ごと、主体的)
- ・数学的な表現を用いて説明する場面において、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現するを通して、それぞれの特徴を捉えて、適切に表現できるようにする。(簡潔・明瞭・的確に表現する力)

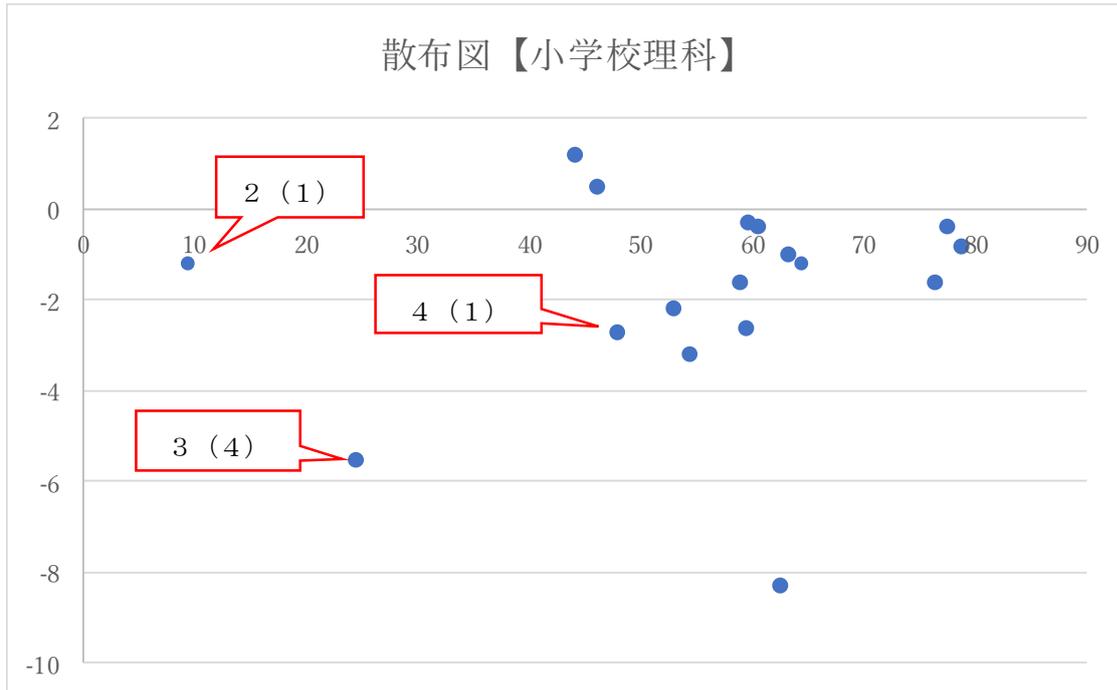
## 【小学校理科】

### 1 調査問題及び結果の状況

小学校理科は、「エネルギー」を柱とする領域から4問、「粒子」を柱とする領域から6問、「生命」を柱とする領域から4問、「地球」を柱とする領域から6問の計17問（「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の領域に該当する場合があるため、各領域の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。）が出題された。また、出題形式は選択式が11問、短答式が4問、記述式が2問であった。

結果は、全4領域で全国の平均正答率を下回った。特に、「生命」を柱とする領域において課題が見られた。

### 2 設問別正答率の状況



縦軸 静岡県の平均正答率から全国の平均正答率を引いた値

横軸 静岡県の平均正答率

### 3 課題の見られた問題

問題番号 [領域等]	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	静岡県	全国		
2 (1) [エネルギー] 選択式	9.4	10.6	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる
3 (4) [生命]記述式	24.4	29.9	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる
4 (1) [粒子]短答式	47.9	50.6	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	水の温まりかたについて、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる

#### 4 授業改善に向けて

今年度の結果で注目した点は、小学校における問題解決の過程で、実験の結果から新たな問題を見だし、表現する力の育成が重要であるという点である。特に、「問題を見だし」ことが課題となっており、この力を高めることが求められている。学習指導要領解説では、理科で育成したい思考力、判断力、表現力等の目標として「問題解決の力を養う」と記されており、学年を通して育成を目指す問題解決の力が段階的に示されている。

理科の調査問題等の分析から	理科の目標
<p>〈小学校〉 ③ (4)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈条件〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水あり</li> <li>・空気あり(種子が空気にふれている)</li> <li>・温度(室温)</li> <li>・日光なし(箱をかぶせている)</li> <li>・肥料なし</li> </ul> </div> <p>水、空気、温度のほかに、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。</p> <div style="text-align: right;">  <p>てるみ</p> </div> <p>(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。</p>	<p>(2) 観察, 実験などを行い, <b>問題解決の力</b>を養う。</p> <p>3年：主に差異点や共通点を基に、<b>問題を見いだす力</b></p> <p>4年：主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある<b>予想や仮説を発想する力</b></p> <p>5年：主に予想や仮説を基に、<b>解決の方法を発想する力</b></p> <p>6年：主により<b>妥当な考えをつくり出す力</b></p> <p style="font-size: small; border: 1px dashed black; padding: 2px;">「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 理科編」(17・18頁)</p>

実際には、問題を見いだす力を身に付けるためには、複数の自然の事物・現象を比較し、差異点や共通点を意識して新たな問題を見いだすことが重要である。しかし、授業の中で子供が自分で問題を見いだす経験が少ないことが課題となっており、これは授業の進め方に工夫が求められるポイントである。教師が問いを一方向的に与えるのではなく、子供が自然の事物・現象から問いを見つけることができるような場面を設定することが大切である。

授業場面では、子供が自分で問題を見いだしたり、実験結果から新たな疑問を持ったりすることを促進するような指導が必要である。例えば、植物の発芽に関する問題を通じて、既習事項や生活体験を振り返りながら差異点や共通点に着目し、問題を見いだす活動を取り入れることが有効である。さらに、子供が見いだした問いを言葉にする活動や、他の子供にその問いを伝えたり、吟味したりする場面を設定することで、問題を見いだす力を育成できると考えられる。

授業改善のためには、問題解決の過程を螺旋的に回すための単元構想をすることが求められる。問題解決の「結論の導出」の段階で「振り返り」と「次の問題の見だし」の場面も意識的に取り入れることで、子供が主体的に問題解決を進め、次なる課題に取り組む力を育むことができると考えられる。

理科の授業改善に向けて	理科の授業改善に向けて
<p><b>授業場面では</b></p> <p>問題を解決していく中で生まれた疑問から、新たな問題を見出すために</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>種子には養分がないのに、発芽したあと成長し続けています。インゲンマメの成長には、何が必要なのだろう。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1年生でアサガオを育てたときに、元気なアサガオになるように工夫したことがあったね。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>日光がよく当たるようにしたり、肥料をあげたりしたよ。水もいっぱいあげたね。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0; background-color: #ffffcc;"> <p>インゲンマメの種子の発芽に必要な条件と、元気なアサガオを育てたときに工夫した点について整理してみましょう。</p> </div> <p style="font-size: x-small;">R7報告書小学校理科【速報版】P.57, 58 授業アイデア例より作成</p>	<p><b>授業場面では</b></p> <p>問題を解決していく中で生まれた疑問から、新たな問題を見出すために</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>他にも必要な条件があるかもしれないので、もう少し考えたいです。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0; background-color: #ffffcc;"> <p>それでは、学級の共通の問題をどのようにするとよいですか。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>問題</b> インゲンマメがさらに成長していくために、どのような条件が必要なのだろうか。</p> </div> <div style="background-color: #92d050; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold; margin: 5px 0;"> <p>新たな問題の見だし → 表現する展開</p> </div> <p style="font-size: x-small;">R7報告書小学校理科【速報版】P.57, 58 授業アイデア例より作成</p>

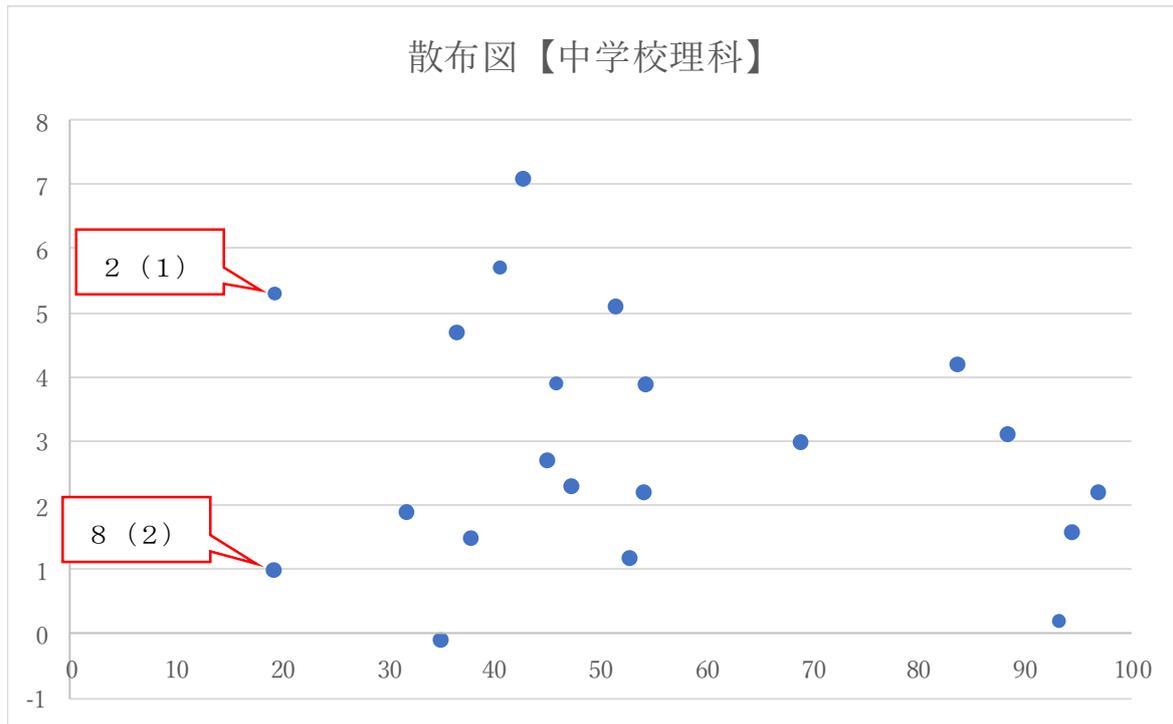
## 【中学校理科】

### 1 調査問題及び結果の状況

中学校理科は、公開問題として「エネルギー」を柱とする領域から5問、「粒子」を柱とする領域から8問、「生命」を柱とする領域から5問、「地球」を柱とする領域から5問の計22問（「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の領域に該当する場合がありますため、各領域の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。）が出題された。また、出題形式は選択式が15問、短答式が1問、記述式が6問であった。

結果は、全ての領域で全国の平均正答率を上回った。特に、「粒子」を柱とする領域の平均正答率は、全国の平均正答率と比較して高かった。

### 2 設問別正答率の状況



縦軸 静岡県の平均正答率から全国の平均正答率を引いた値

横軸 静岡県の平均正答率

### 3 課題の見られた問題

問題番号 [領域等]	正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	静岡県	全国		
2 (1) [エネルギー] 記述式	19.3	14.0	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる
8 (2) [地球]記述式	19.1	18.1	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる

#### 4 授業改善に向けて

理科の目標の柱書にある「見通しをもって観察、実験を行う」とは、観察、実験を行う際、子供に観察、実験を何のために行うか、観察、実験ではどのような結果が予想されるか考えさせることである。また、学習指導要領解説には、「主体的な学び」についての授業改善の視点として、「観察、実験の結果を分析し解釈して仮説の妥当性を検討したり、全体を振り返って改善策を考えたりしているか」と例示されている。

**理科の調査問題等の分析から**

〈中学校〉②(1)  
理科の授業で、ストローと水の入っているペットボトルで楽器をつくり、音について科学的に探究しています。

ストローを上下に動かしたら音の高さが変わりました。

ストローの中に息を吹き込むと音が出るのは、ストローの中の空気が振動したからだよね。

音の振動の様子をオシロスコープで調べてみよう。

【実験】「ストロー内の空気が入る長さ(■の部分)を変えて実験を行ったときのオシロスコープの波形を観察しました。

実験1      実験2

オシロスコープの波形      オシロスコープの波形

**理科の調査問題等の分析から**

〈中学校〉②(1)

【考察】  
「ストローの中の空気が入る長さ(■の部分)が長くなるにつれて、音はだんだん低くなる」

右のように【考察】しました。

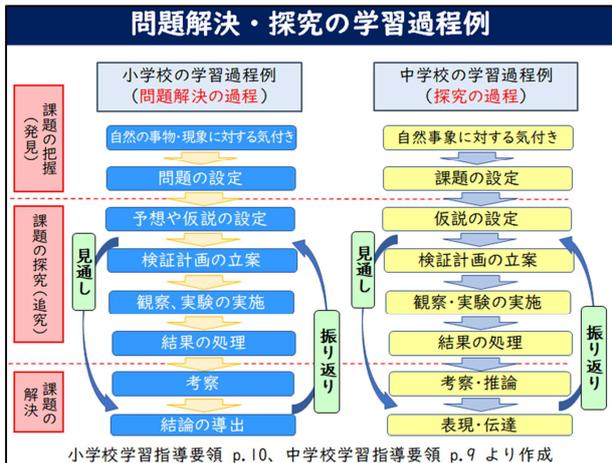
【考察】をより確かなものにするには、あと1つ実験を行うとよいですね。次のア、イ、ウのどれで実験を行えばよいのかな。

ストローの高さが分かるように補助線を引いている

実験1      実験2      ア      イ      ウ

実際の授業場面では、考察をより確かなものにするために、既習の知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画することが考えられる。計画した観察や実験から何が分かればよいのかをはっきりさせてから観察、実験を行うなどして、科学的な探究の過程を振り返り、探究の見通しをもたせることが大切である。その際、科学的な探究の見通しをもつために、すぐに観察、実験を行うのではなく、個人やグループで「観察や実験の結果から何が分かればよいのか」について確認し、共有する学習場面を設定することが考えられる。

授業改善のポイントとしては、検証計画を立てる段階で、検証計画について子供同士で協議したり、教師が適切に問い返したりすることによって、どのような結果が出れば、予想や仮説が立証されるのか見通しをもてるようにすることが重要である。また、関係性を検討する際には、比較対象を明確にし、その結果を言葉で表現する活動を充実させることも有効である。さらに、探究の過程全体を通して、自分の考えを改善する際には、修正前の考えを消さずに残したまま修正し、自己の変容を振り返ることができるようにする。自分の考えを修正しながら探究を進めることで、理科の見方・考え方を深め、問題解決能力を高めることができる。このような過程が、主体的・対話的で深い学びにつながり、理科で育成したい資質・能力を身に付けることにつながると考えられる。



**理科の授業改善に向けて**

〈授業改善のポイント〉

- 「検証計画の立案」の場面で
  - 検証計画について協議したり、教師が適切に問い返したりすることによって、どのような結果が出れば、予想や仮説が立証されるのか見通しをもてるようにする。
  - 関係性を検討する際には、「○○と比べて」のように、比較する対象を明確にして、文章として表現する言語活動を充実させる。
- 「探究の過程」全体を通して
  - 考えを改善する際には、修正前の考えを消さずに残したまま修正し、自己の変容を振り返ることができるようにする。

### (3) 質問調査の結果分析

1 自己有用感に関する項目に肯定的に回答した割合が小学校、中学校ともに高く、経年変化からも年々割合が高くなっていることがわかる。これは、教員が、静岡県教師用指導資料「令和版 自分ごと（自分の事）として学ぶ子供」に示されている「肯定的な子供観」をもち、安心して学べる学習環境づくりを進めてきた成果だと捉えることができる。

